

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

時代の傾向なのか、政治家等の発言に対して視聴率を意識したテレビ番組などの報道が、一日中提供されている。既に情報の授受

は、インターネットで素早く入手できる時代。若年層ではテレビによる報道には関心が無いとの声も聞かえてくる。テレビ業界も、情報番組を劇場化して視聴率を確保し、スポーツ離れの阻止に奔走している

か。一方的に与えられた情報内容で、物事に対して自らの考えを即座に発言する現状を危惧するのは私だけなのだろうか。そんな問題意識もあり、信州大学大学院の恩師でもある都築勉さ

葉・発言は、政治のいなみそのものだ。しかもそれは、「真か偽か」の二値論では測りきれない。嘘とまことの間(あわい)で、微妙にずれ、あるいはねじれ、ぼかしとかわしの複雑なテクニクの応

報発信、そして多くの地域で極右思想をほじめ現状を激変するよう呼びかける思想発言が多く感じられる状況になってきている。言葉が政治を動かす場面は今後増していくのだろう。

くの人々に自分の考えを話し、説得し、対立する意見と交渉し、妥協する経験が求められる。そして自治体の規模を問わず、発した言葉は国際問題にもなりかねない要素を含んでいる。だが言葉の積極

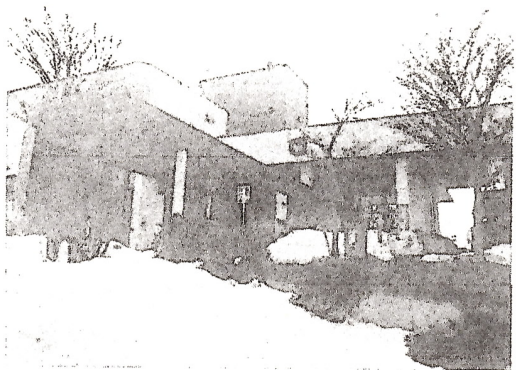
的な選択による使用によって、地域住民の地域行政への関心を高めてほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

私達の身近な政治家が地域社会に発する言葉にどの様に関心を示すか考えてみませんか

選挙活動の時の発言が、政治リーダーと

酬が展開される、高度かつ複雑怪奇な言葉の世界、日本政治の特質を鮮やかに浮かび上がらせる内容だ。小泉元首相のさまざまな発言、オバマ前アメリカ大統領の演説、トランプ大統領の刺激的な情

なって実行できないと不満の声がある事も事実だ。だからこそ、政治を自指す者は、使う言葉について自らが学ぶ役目を担っている事を忘れてはいけない。政治家は、言葉を操る専門家だ。いつでも多



行政の舞台での政治家の言葉は大きな意味を持っている。多くの人達が言葉の大切さを考える事が大切だ。